

11月28日(日)開催 (山直南校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
1	<p>永野市長と市民の皆さんに訴える。                      今般岸和田市教委が、小中学校の規模適正化等を目的として、150年の歴史と伝統を誇る山直南小学校を廃校にするとの案を発表されました。</p> <p>この案では、包近・山直中と稲葉・積川の子供が分断され、山直南校区が破壊されることとなります。</p> <p>私は、愛する郷土を守るため、この案に断固反対します。</p> <p>岸和田市の人口は年々減少していますが、校区別に見ると増加している校区もあります。</p> <p>減少校区の代表は、山滝校区です。山直南小学校を廃校にして稲葉と積川の子供たちが通学する山滝の小学校は、将来一層少子高齢化が進む地域にあり、教委が目指す小学校の規模適正化は夢のまた夢です。</p> <p>一方包近と山直中の子供たちが通学することになる山直小学校校区は、市長が住いされている三田町はじめ岡山町田治米町今木町等市街地にあり、住宅適地が広く存在しています。将来、この地域は必ず人口増加が見込まれ、やがて小学校は規模過大校となり分割されることになるでしょう。その時最初に犠牲になるのは包近と山直中の子供たちです。</p> <p>私は愛する郷土と子供たちを守るため山直南小学校の廃校に断固反対します。</p>	<p>学校は、何よりもまず、子どもたちの教育のための場であり、将来にわたって、子どもたちにより良い教育環境、教育内容を保障していくことを最優先に取組を進めていきたいと考えます。それによる地域コミュニティへの影響については、地域の皆様のご意見も踏まえ、市長部局とともに必要な支援を行います。</p> <p>地域ごとの人口増減に関するご見解については、ご意見として承ります。</p>
2	<p>実施計画案の中では、小規模化によるデメリットばかり指摘し、それをクリアーするために、適正化が必要であるという論調だが、小規模によるメリットもたくさんあるはずである。また、適正化とは云え、デメリットもあるはず。そのあたりの議論がしっかりとできる計画案が必要である。</p> <p>小中学校と地域のつながりというのは、非常に強いものがある。その点をふまえ、例えば、学校がなくなった場合、その地域にどのような影響がでるのか、考えているのか、不明である。</p>	<p>6～11学級の小規模校のメリットとして、児童一人ひとりに目が行き届き、きめ細かな指導が行われていること、学校が一体となって活動しやすいこと、運動場や体育館、特別教室、教材備品等余裕を持って利用できること、色んな学年の児童生徒とふれあう機会が多いことなどがあげられます。</p> <p>一方、適正規模・適正配置の実施に伴う課題としては、通学距離が長くなること、地域コミュニティへの影響があることをあげ、前者については、通学の安全確保のための対策を講じるとともに、必要に応じてスクールバスを導入すること、後者については、地域の皆様と協議し、市・教育委員会として必要な支援を行っていくことを、説明会でご説明してきたところです。</p> <p>文部科学省が示す新しい学習指導要領では、学校で学んだことを子どもたちの将来につなげていくために、主体的・対話的で深い学びを重視しており、教育委員会としては、集団規模が確保された教育環境の下で、多くの友達をつくり、時には自分と違う多様な考え方に触れる機会をたくさん創ることが大切であると考え、今回の適正規模・適正配置の取組を進めているところです。小規模校にも多くのメリットがありますが、適正規模・適正配置により、教育環境、教育内容を充実していくことのほうが重要であると判断して、適正規模・適正配置の取組を進めていくこととしております。</p>
3	<p>少子化に伴う、小中一貫校は理解出来るが、岸の丘町に市の土地が多くあると聞いているが、小中一貫校を新設する事にした方が良い。今の山滝中学に集約されるには、今後のメンテナンスコストを考えれば新設の方がメリットがあると思います。人数の少ない場所に多い学校が行くのは問題が多い。通学バス等の費用も増えると思う。</p>	<p>現在、ゆめみヶ丘の住宅開発エリア周辺の市有地については、民間事業者による有効活用を図るべく、公募による売却手続きが進められており、学校整備に適した敷地がない状況です。また、現在森林となっている自然保全エリアに学校施設を新設するとなると、学校の建設費用に加えて、土地の造成費用や、上下水道の整備費、電気、ガスといったインフラ整備費用が別途生じてきます。さらには、都市計画の変更が可能としても、その手続きに要する期間が学校建設の前に数年程度必要となり、これらのことを踏まえると、このエリアの市有地に学校を新設することは困難であると考えています。</p>

11月28日(日)開催 (山直南校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
4	岸和田市小中計画は市の方針であれば永の市長は市長選の公約に入れて下さい。	ご意見として承ります。
5	資料にたくさんのおやまりがあります。 きちんとした資料をつくらまはろ！	当日の資料については、教育委員会としての考え方や方向性をお示したものであり、また児童数等については、学校基本台帳や住民基本台帳等に基づき算出しています。具体の箇所をご指摘いただければ、確認の上、事実に基づいて必要な修正を行います。今後も、市民の皆様にわかりやすい説明及び資料づくりに努めます。
6	計画では私の住んでいる所から山直小学校へ通学することになります。小学校が遠くなることから若い人が入居しなくなりそうです。今でも老人の町ですがさらに進んでいき廃墟の町になりそうです。 市街化調整区域を外してもっと人が増えることも市と一緒に検討して下さい。	市街化調整区域解除のご意見については、担当部署に伝えます。 魅力あるまちづくりを図るための様々な施策については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。
7	つぶさせません。	ご意見として承ります。
8	小学校中心とした地域です。山直南小学校廃校で反対します。歴史ある150年の伝統を大切に、山直南小学校発展にしたいです。	山直南小学校が地域の皆様に支えられ、歴史と伝統を紡いでこられたことに感謝申し上げます。 今後も、各学校が児童生徒の豊かな心を育むために取り組んできた特色ある教育活動については、引き続き継承した上で、未来を担うこれからの子どもたちがより良い教育環境の下で学校生活を送ることができるよう、取組を進めていきます。
9	山直南小 → 山直南中学 山滝中 → 山滝小学 ←3校全員が統合する(包近 山直中 相川 河合等) 山滝中はせませざる	ご意見として承ります。
10	計画が進んでいく中で、山直南小学校が廃校にならない可能性を考えておられますか？ 小中一貫校の方針はメリットあると思いますが、校区の分け方に問題があると思います。	今回の地域説明会において、山直南校区の児童が同じ中学校に進学することを望むご意見や、ゆめみヶ丘の開発に伴う児童生徒数の増加を踏まえると再編の必要はないといったご意見も多くいただいています。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。
11	福祉教育についても、もっと、力を入れるべきだと思います。そのためにも英語教育、プログラミング教育だけでなく、お年寄りや障害のある方に寄り添う心を子どもたちに持ってもらうために、福祉教育は、全学年に児童のレベル(各学年の理解度)に合わせて行っていただきたいと思っています。その際、岸和田市社協もこの取り組みに巻き込んで連携を取りながら“福祉のまち岸和田”をアピールできるように福祉教育にもっと力を入れていただきたいです。	福祉教育の重要性については、教育委員会はもとより市内全学校で理解しつつ、各学年に応じた内容で計画を立て実施しているところです。小中一貫教育の実践の中で、系統的に実施することも含めて検討していきます。

11月28日(日)開催 (山直南校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市立の小中一貫が必要と思われぬ。中学入学時のギャップが問題だと書かれているが、人生の中で、困難は何度もある。わざわざ大人が遠ざける必要は感じられない。</li> <li>・また、クラブなどが少人数で出来ないとの事だが、やりようで出来るのではないか。知恵をしぼる方がよいのではないか。</li> <li>・存続する方向で議論できないものか。</li> <li>・少子化の現実を理解できるが、どう対応していくか考えていこうにしたい。町全体を考えていく。</li> <li>・「計画案ありき」では、ない。再編にはお金がかかるのでは？</li> </ul>	<p>①小中一貫校を含む小中一貫教育については、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。文部科学省の調査では、H26年とH29年の調査ともに、導入済みの自治体のうち、95%を超える割合で大きな成果が認められる、または成果が認められるとの回答があり、教育的効果が期待できると考えています。一方、課題が認められるとする割合については、H26年の調査では77%であったものが、H29年では53%に減少しており、各自治体において課題を解消するための取組が構築されてきたものと考えます。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。</p> <p>「中学入学時のギャップが問題だと書かれているが、人生の中で、困難は何度もある。わざわざ大人が遠ざける必要は感じられない」とのご意見については、中学への進学を境に不登校やいじめなどの問題が増えること等は放置できない大きな教育課題であると認識しております。</p> <p>②部活動については、多様な展開が可能となるよう、望ましいあり方について引き続き検討します。</p> <p>③現在の小学校24校、中学校11校を今後もそのまま存続させることは、これからの子どもたちの教育環境を考えた際に好ましいものではなく、適正規模・適正配置の取組が必要であると考えています。その際の具体的な方策については、現在の計画(案)をたたき台として、今後も地域・保護者の皆様に丁寧な説明と話し合いを重ね、より良い方向性を見出していきたいと考えています。</p> <p>④新たな学校が開校する際は、校舎の建替等の整備費用が必要となり、一方、再編に伴い使用しなくなる学校施設の今後の改修費用は不要になるものと考えています。</p>
13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一貫性のない宅地開発で、岸の丘夢見が丘に入居した人たちは、どうなるのか？それで児童数が増えると言われてたのに。→市長もこの計画案に参加しているならなおのこと。市政に一貫性がなく、この岸和田をどうして行きたいのかわからない。</li> <li>・「基本方針」通りでなければいけないのか。</li> <li>・小中一貫校はいいとは思いますが、今の状態で教育環境に課題があるとは思われぬ。小中一貫は私立にまかせるべき。→市立は無理。</li> <li>・子は国の宝。より良い方に進めたい。子供たちにとって一番大切な事は何か。</li> <li>・小規模校の良さをもっと前面に出して、新しいモデルを作ったらいいと思う。(デメリットも逆手にとって)今の時代は、その方がいいのでは。</li> <li>・統合ありきではないと思う。</li> <li>・問題をかかえている子ども(ケアが必要な子ども)も、多少なりといるのでその子たちのためには小規模校の方が良いと思う。</li> </ul>	<p>①岸の丘町ゆめみヶ丘については、約270世帯、1,000人程度の住宅開発と把握していますが、そのうち、どれ程の人数が小中学生かといったことについては、現時点では不確定のため、算出が困難ですが、説明会の中では、500人の子どもが増えるといったご意見もお伺いしたところです。今後も、最新の情報を常に把握するとともに、地域の皆様が想定される人数の考え方もお聞きし、より正確な児童生徒数の把握に努めていきます。</p> <p>②小規模校のメリットについても承知していますが、教育委員会としては、小規模による課題解決を優先すべきと捉えています。文部科学省が示す、新しい学習指導要領においても、これからの社会の中で生きる力を育むために「主体的・対話的で深い学び」が重要とされ、そのためには、子どもたちが一定の集団規模の中で、多くの友達との対話を通じて、多様な考え方を形成し、深い学びにつなげることが大切であり、そのような教育環境を整える上で、適正規模・適正配置の取組は不可欠であると考えています。なお、No.12①の回答のとおり、小中一貫校を含む小中一貫教育についても、文部科学省において実施の際の手引が示され、既に多くの自治体で導入されており、効果検証も行われています。各自治体の取組状況を踏まえると、私立だけでなく、市立の小中一貫校においても、教育的効果は期待できるものと考えています。今後も、先進自治体の好事例を多く視察・研究するとともに、「岸和田市小中一貫教育推進会議」においても必要な対応について引き続き検討します。</p> <p>③支援(ケア)が必要な児童生徒については、学校規模の大きい小さいに関わらず、すべての小中学校において、必要な支援を適切に行います。</p>

11月28日(日)開催 (山直南校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
14	<p>☆小規模校のデメリットだけを取り上げず、メリット面を考えてみると</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目がゆきどとく</li> <li>・キメ細やかな教育が出来る。-それぞれの学力に合わせられるはず。</li> <li>・自然豊かな環境</li> </ul> <p>多くの生徒とのコミュニケーションが取れないと言われるが、コミュニケーションは同学年だけのものではなく、他の学年、教師、住人の老若男女と取った方が知識が増えると思われる。</p> <p>☆生徒数を増やす方法を考えてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夢みが丘などの宅地開発をしてきたのに廃校されるのが納得いかない。</li> <li>・特認校を増やしていく(他県からでもいいのでは)</li> <li>・新入所者が住みやすい環境(交通など)をつくる。</li> </ul> <p>☆「幼児教育を含めた一貫教育」とされているが市立の幼稚園をなくしてそれが出来るのか?</p>	<p>①No.13②の回答のとおり、小規模校のメリットも承知していますが、教育委員会としては、小規模によって生じる課題解消を優先すべきとし、適正規模・適正配置の取組を進めているものです。なお、学校生活の中で、社会性や協調性、コミュニケーション能力等を身につけることは、「異年齢集団」の中であると、「同学年集団」の中であると問わず、必要なことと考えています。また、同学年の集団規模については、クラス替えの可否の点に加えて、学習指導要領等に基づき、学年ごとに教育課程が編成されていることから、同学年においても一定の集団規模が必要であると考えています。</p> <p>②子育て世代が岸和田を選択していただけるよう、魅力あるまちづくりや、教育の充実を図る様々な取組については、今後も市長部局とともに取り組んでいきます。</p> <p>③市と教育委員会では、市立の幼稚園・保育所を私立・民間の認定こども園に再編する再編個別計画【前期計画】(案)を取りまとめ、説明会を実施いたしました。これら認定こども園における幼児教育については、私立であると市立であるとを問わず、小学校との連携が必要であり、一貫した教育が実践できるようにしてまいります。</p>
15	<p>説明会場が広い(体育館)、答えがきき取りにくい。 第1期計画地域においては、市民と、保護者の個別説明会が必要と思います。 大変やと思いますが、よろしくお願いします。</p>	<p>音声聞き取りにくかったことについてはお詫び申し上げます。 より良い計画の策定に向けて、今後も引き続き、地域・保護者の皆様には十分な説明と話し合いを行います。</p>
16	<p>この案の小・中一貫教育については、メリットはあるのかもしれないと思いますが、まずは、市長や議会の都市計画が山手の方への感心があるのか?ということ、つまり、山手の人口を増やすようにする案が、もっと具体的に推進していくべきだと思います。 人口や子供が減少して来たから、再編して、学校を廃校するという受身的な案ではなく、もっと、発展的な方向で、教育にも向けていくべきではないかと思っています。</p>	<p>子育て世代が岸和田を選択していただけるよう、今後も市長部局とともに、魅力あるまちづくりや教育の充実を図る様々な取組を進めていきます。 都市計画の視点から山手地域の人口を増やすため、具体的に推進すべきといったご意見は、担当部署に伝えます。</p>
17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日登下校する学校が遠すぎると感じました。まだ低学年で道中が心配です。もし事故にあったらなど不安が大変大きいです。</li> <li>・祖母の代から山直南小学校でお世話になりました。私は、他市からお嫁にきましたが、山直南小学校に子供が入学してとても良かったと思っています。先生方のご指導やご対応は本当に熱心でありがたく思います。</li> <li>・小人数で皆が(クラス全員が)仲良く伸びのびと学校生活を送ってくれるのが望ましいです。学校(山直南)をなくすのは絶対に反対です。</li> </ul>	<p>①安心・安全な通学環境の整備は教育委員会としての責務であり、必要な対応を適切に行います。 ②地域・保護者の皆様に支えられ、山直南小学校がこれまで育まれてきたことについては感謝申し上げます。一方で、次の時代を担うこれからの子どもたちが、将来にわたって「生きる力」を身に付けるためには、小学校の時から、一定の集団規模の中で、多くの友達との対話を通じて、多様な考え方を形成し、深い学びにつなげることが大切であり、そのような教育環境を整える上で、適正規模・適正配置の取組は不可欠であると考えています。 少人数(小規模校)のメリットも承知していますが、教育委員会としては、小規模による課題の解決を優先すべきと捉えています。</p>
18	<p>校区単位で地域で子どもの見守りを進めている中、山直南小学校が半分に分断されると活動は難しくなるのではと懸念します。</p>	<p>再編後の子どもたちの見守りや地域活動については、地域の皆様と十分に協議し、協力を得てまいりたいと考えております。</p>

11月28日(日)開催 (山直南校区)

番号	ご意見ご質問用紙記載内容(原文のまま記載)	教育委員会の回答・考え方
19	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調整区域により自元に住むことが出きなく、人が減ったから学校を減らすというのは横暴ではないかと思う。</li> <li>・市政の決点のしわ寄せを背負わされる様に感じる。</li> <li>・まず人口を増やす計画をしてからの話だと思うので今その話は受け入れられません。</li> <li>・小中学校の一貫による縮小案は、議会の決定事項でくつがえらないのか。今後住宅増加による子供が増える見込みがあってもそれを加味、変更はないのか。</li> </ul>	<p>①今回の適正規模・適正配置の取組は、学校の小規模化が進む中、これからの子どもたちのより良い教育環境の整備と学校教育の充実のために行うものであり、これ以上先送りできないものと考えております。</p> <p>②今回の実施計画案は、市と教育委員会の案としてお示したものであり、その内容について市議会が決定したものではありません。今後、地域や保護者の皆様と十分に意見交換を実施した上で、市長と教育長でより良い案として固め、関連議案を市議会に提案し、そのご審議を経て決定・実行されていくものです。</p>
20	<p>山直南小学校廃校について、地域のデメリットをお聞かせ下さい。(教育面以外) 又、デメリットを解消するための、対策を、お聞かせください。</p>	<p>学校は、教育施設としてだけでなく、防災や地域コミュニティの拠点としての役割を果たしてきたことから、それらの機能については学校閉校に伴い影響が生じるものと考えます。しかしながら、今後、仮に閉校となった学校の跡地活用についても、地域の皆様と十分に協議し、幅広い視点から有効に利活用される方策を検討します。また、地域コミュニティのあり方については、学校再編に合わせて、行政が活動単位を変更するのではなく、地域の皆様が主体的に判断されるものと認識していますが、活動場所の確保等の様々な支援については、市長部局と一体的に対応していきます。</p>
21	<p>総論は分かります。 この4ヶ村(包近～積川)においては分断されてしまい、地域コミュニティが、祭も成立しなくなります。 せめて校区を見直し下さい。</p>	<p>第1期計画(案)の策定にあたっては、集団規模の確保だけでなく、通学距離・時間等の地理的条件や、地域コミュニティ等を総合的に判断し、既存の中学校区を単位とした再編案をお示しているところですが、説明会においても、山直南校区の児童が、中学校においても同じ学校に進学することを望むご意見を多くいただいているところです。教育委員会としても地域・保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めた上で、今後も引き続き、話し合いを重ね、より良い計画の策定に向けて努めていきます。</p>